

寒くとも着ぶくれはNG 冬の保温術

1 体のラインは冬も生かす

- ビジネスに過剰な厚着は不適切。体のラインを生かしたコートなどが基本



2 保温のポイントは3つの首

- 服は重ねるほど体との間の空気の層が狭くなり、保温効率は低下する

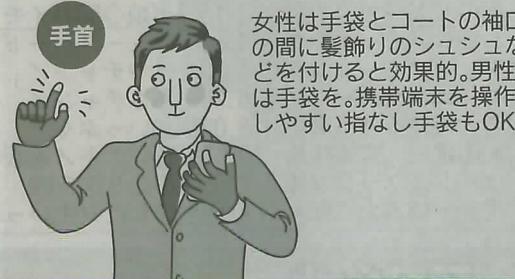
- 外気に触れやすい首元、手首、足首の保温を意識。空気の層の流出も防ぐ

- 暑くなったら2カ所から熱を逃がして調節を



3 上手なコーディネートで好印象を

- 首元** ストールやマフラーを活用。結び方やピン留めを活用しておしゃれな印象に



女性は手袋とコートの袖口の間に髪飾りのシルクなどを付けると効果的。男性は手袋を。携帯端末を操作しやすい指なし手袋もOK

暮ら達人のワセ

「スース姿にダウンジャケットを羽織って歩く人が目立つのが、少し気になっています。あのモコモコした姿で取引に行くのでしょうか。女性のアーツ姿もビジネスの場には合いません。仕事相手にどんな印象を与えるか、もう少し考え方方がよいでしょう」

「私は秘書をしていた当時、企業の役員室を出入りする人たちの着こなしについて注目していました。例えばある社長はいつも体の

ラインにきっちり合ったスリーブを着ていた。それだけで日々節制をしている人だとわかる着こなしです。日ごろはカジュアルな服装の取引先の経営者も、商談では白のワイシャツを着用。

——防寒は欠かせない。「ただ重ね着をするのでなく工夫が必要です。実

でも仕事や場にふさわしく、快適な装いを提案する。それがスタイリストとしての目標です」

3つの首を保暖

は重ね着は保温法として非常に効率なのです。体と衣服の間の空気のスペースが減るからです。スースにコートを羽織るくらいの着こなしでも、十分に保温は可能です

——保温のポイントは、「首元、手首、足首とい

う「三つの首」から熱を逃がさないことです。首元はマフラーやストールを活用しましょう。手首は手袋。

スマート冬着で仕事快適に

秘書経験から快適な仕事着提案

橋本 ワコさん



はしもと・わこ 福島県出身。福島大卒、43歳。旅行会社などを経て、1999年にコナミに入社。役員秘書を勤める。2007年、スタイリストとして独立。主にビジネスパーソンを対象に着こなしの提案を行っている。

寒さ本番、コート姿のビジネスパーソンが増えた。だが、着ぶくれで見た目がいまひとつの人も。秘書経験から仕事を快適にする着こなしを提案している stylist の橋本ワコさんによると「重ね着のしきは防寒対策として非効率」。仕事や街歩きに適した冬の着こなしとは……。

う『三つの首』から熱を逃がさないことです。首元はマフラーやストールを活用しましょう。手首は手袋。

——冬はおしゃれの季節ともいわれる。

「保温の基本は3つの首での小物の活用ですから、今日はマフラー、明日は手袋といった具合に、男女ともにおしゃれを楽しめます。たとえば女性なら、大判のストールを肩にかけて首前で交差させ、大きめのピングで留める。ストールが取りにくくなり、洗練された美しさも演出できます。定番の着こなしを何パターンかつければ、月曜から金曜まで違った印象を与えることもできます」

——スタイリングで最も意識することは。

「その人の魅力をそのまま引き出すことです。きっとかけはある女性管理職からの依頼でした。『髪形から洋服まで劇的に変えないでほしい。例えば髪形を『リ

変えるだけで、私の良さを引き出せるような演出を考えてほしい』というのです。確かに見栄え重視であり変えると、本人も周りもついていけなくなる。それより小物などを生かして、仕事にふさわしく、快適に働ける着こなしを提案することが大切だと気づかされました。身につけるものは小さいものでもその日の気分を左右する力も持っています。私のアイデアが皆さんにふさわしい着こなしそを見つけるヒントになれば、うれしいです」

ある程度熱を逃がすようにするとすっきりします」

自分を引き出す